

# 教科目名 都市・環境工学概論 (Introduction to Civil and Environmental Engineering)

学科名・学年 : 都市・環境工学科 1年

単位数など : 必修 2単位 (前期1コマ, 後期1コマ, 授業時間 46.5時間)

担当教員 : 亀野辰三, 寺村 淳

授業の概要			
本講義では、安全で快適な社会生活を送る上で欠かすことのできない都市・環境工学の基礎知識を学ぶ。前期は、都市・環境工学をめぐる現状を国際的な観点から学ぶと共に、社会基盤の歴史や環境保全の重要性を学ぶ。後期は、国内の社会基盤の歴史を中心に学ぶと共に、これからの社会基盤の創出に必要なワークショップの基礎スキルを実践的に学ぶ。			
達成目標と評価方法			大分高専目標 (B2)
(1) 社会基盤整備の観点から都市・環境工学の意義を理解できる。(定期試験)			
(2) レポートとプレゼンテーションによって社会基盤施設の役割が理解できる。(レポート&プレゼンテーション)			
(3) 日本の社会基盤の歴史とワークショップについて理解できる。(定期試験)			
(4) 演習問題や施設見学を通して理解を深めるとともに、継続的な学習ができる。(課題・レポート)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1 2-4 5-6 7	1. 都市・環境工学のあらまし 2. 都市・環境工学をめぐる現状 2.1 世界と日本 2.2 人口減少社会と一極集中問題 3. 社会基盤の歴史	○都市・環境工学が果たすべき役割を学ぶ。 ○世界と日本の都市を正しく理解する。  ○大分市を対象にワークショップを通して地域の一極集中問題を理解して解決策を考える。 ○社会基盤の種類と分野を学ぶ ○日本の都市の歴史を理解する。	【理解の度合い】
8	前期中間試験		【試験の点数】 点
9 9-11 12-13 14	前期中間試験の解答と解説 4. 都市の歴史  5. 環境工学概説 6. 防災と環境	○わからなかった部分を理解する。 ○明治以降の日本の都市や公園の歴史を学ぶ。 ○「パークプレイス大分公園通り」を見学し公園の景観デザインを理解する。 ○都市・環境工学科で学ぶ環境分野の概要を理解する。 ○建設構造物を災害から守る技術と技術者に必要な防災教育を理解する。	【理解の度合い】
15	前期末試験		【試験の点数】 点
	前期末試験の解答と解説	○わからなかった部分を理解する。	
16 17-19 20-22	9. 日本の社会基盤の歴史とこれから 10. ワークショップとは 10.1 ワークショップとは 10.2 グループワーク体験 11. 地域と社会基盤	○日本の社会基盤と歴史の関係性を理解する。  ○グループでのディスカッションの手法や合意形成プロセスを理解する。 ○議論による合意形成を学ぶ。 ○九州と石橋・大河津分水と新潟平野など社会基盤整備とその背景について理解する。	【理解の度合い】
23	後期中間試験		【試験の点数】 点
24 25-27 28-29	後期中間試験の解答と解説 12. 社会基盤と人物史  13. ワークショップとまちづくり～公園設計 WS～	○わからなかった部分を理解する。 ○武田信玄・加藤清正等歴史的人物と社会基盤整備の関わりや明治期を中心とした近代土木の創設に関わった技術者について学ぶ。 ○ワークショップ手法で仮想公園を設計する。	【理解の度合い】
30	後期末試験		【試験の点数】 点
	後期末試験の解答と解説	○わからなかった部分を理解する。	
履修上の注意	都市・環境工学は社会情勢と密接につながっているため毎日の新聞や、テレビ・ラジオのニュースに関心を持っておくこと。		【総合達成度】
教科書	教科書は使用しない (配布資料を利用する)。		
参考図書	東北大学土木工学出版委員会編、「Civil Engineering～新たな国づくりに求められる若い感性～」, 技報堂出版. 大熊孝, 「川がつくった川, 人がつくった川」, ポプラ社.		
自学上の注意	配布資料, プリント等を専用ノートに貼り, ノートを復習に活用すること。		
関連科目	都市・環境工学科の全専門科目		【総合評価】
総合評価	達成目標の(1)～(4)について定期試験と課題・レポートで評価する。 総合評価=0.6×(定期試験の平均)+0.4×(課題・レポート) 総合評価が60点以上を合格とする。再試験は、総合評価が60点に満たない者に対して実施する。なお、再試験の受験資格は、課題・レポートを全て提出した者に与える。		
			点